

『魅力ある授業づくり』

— 学生が自主的に学び続ける新たなステージに向けて —

学監 大学教育研究センター長 教授 坪井和男



『魅力ある授業づくり』への主な取り組みと実績

大学における教育の質保証を図るため、教員の能力開発に向けた組織的なFD活動を実施することは、大学設置基準の改正に基づくFD活動の義務化によるまでもなく、教育機関として当然の責務である。

中部大学がこのFD活動の義務化に先立ち、その趣旨を先取りした多くの組織的なFD活動を実施してきたことは学内外、学会等でも幅広く知られてきた。加えて、2008年度から、本学のFD活動の重点目標として『魅力ある授業づくり』への取り組みを掲げ、主として6項目について実施している。以下、それぞれの項目の概要、実績および課題について述べる。

① Webを利用した「学生による授業評価」「教員による授業自己評価」

「学生による授業評価」は、2008

年度に従来の“マークシート方式”から“Web入力方式”を採用してスタートし、2010年度には“携帯電話入力方式”を加え、さらに2012年度からはスマートフォン対応も実施して、学生が参加しやすいように改善してきた。

また、『魅力ある授業づくり』を本学のFD活動の重点目標としたことも徐々に浸透し、この5年間で学生数は約16%増加したが、【図】のように、それにもまして回答者が増え続け、回答率は着実に増加している。今年度春学期の学生回答率A（回答学生数/該当学生数）は大学全体の平均で30%を上回った。“Web入力方式”を採用しているケースとしてはかなり高い回答率とも言えるが、回答率が50%を超える学科等も5組織あり、さらに回答率を上げる努力を続けることが望まれる。

学生の授業評価項目の設問8“この授業は総合的に魅力的な授業でしたか”の評価ポイントの経年変

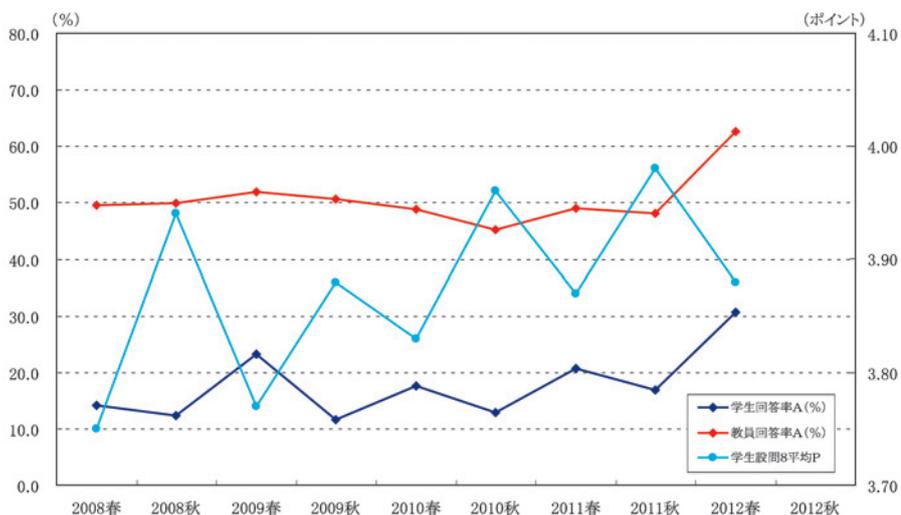
化も、【図】のように春学期と秋学期では評価ポイントに差があるものの、確実に上昇傾向が見られる。この実績は教員と学生との『魅力ある授業づくり』への^{たゆ}まざる努力の結果であると言えよう。

また、“Web入力方式”を採用してから、自由記述件数は“マークシート方式+自由記述用紙”で実施していた2007年度以前と比べて10倍以上の3,000件前後に増加した。『魅力ある授業づくり』への学生の積極的な参加がうかがえ、個々の教員にとって授業改善に有益な情報源となっている。

さらに、「教員による授業自己評価」の教員回答率A（回答教員数/該当教員数）は、今年度春学期に60%を超えたが、ほぼ横ばいとなっている。この5年間で教員数も約18%増加し、回答教員数は増えているとはいえ、回答率90%を超える学科・共通教育科等も8組織あること、FD活動の義務化などからも、回答率を限りなく100%に近づけるさらなる努力が望まれる。

② 携帯電話を利用したクリッカーシステムの提供(授業改善アンケートシステム)

2008年度から教員が授業後に学生の意見を聞くことができるWebを利用した「授業改善アンケートシステム」を提供してきた。また、2010年度秋学期からは、携帯電話を活用して学生の意見等を瞬時に把握できるクリッカーシステム「Cumoc（キューモ）：Chubu University Mobile Clicker」を導



【図】「学生による授業評価」「教員による授業自己評価」回答率等



Cumocを活用した双方向型の授業

入した結果、2011年度は通年で167件の利用があった。授業の双方向性を高めるツールの一つとしてより多くの利用が望まれる。

③授業改善ビデオ撮影支援制度

授業担当者からの希望による授業ビデオ撮影支援制度は、授業サロンにおける授業担当者の振り返りの撮影も含め毎年20件程度であるが、自らの授業改善のため新たな発見も多いものと考えられるので、さらなる利用が期待される。

④授業のオープン化制度

他の教員の授業を授業担当者に申し出る(大学教育研究センターを通して可)ことで参観できるシステムで、当初は利用者も多かったが、2011年度の利用実績の報告は大学教育研究センターには届いていない。なお、後述の“全学公開授業”“授業サロン”の参加者はこの制度に基づき、お互いの授業を参観し合っている。

⑤全学公開授業

自らの授業を他の教員が参観して授業運営に関するコメントを受けることで、授業改善に活かしている。毎年2～3回実施しており、

各回10～15人程度の参加者がある。2011年度は前述のCumocを活用した授業の公開も行われた。

⑥授業サロン

学部間を越えた5人の教員がペアを組み、お互いの授業見学とピアコンサルティングを行い、授業改善に活かすとの趣旨で実施している。毎学期1グループ(2グループの時もある)で実施、現在までに10グループが実施し、学部を越えたFDネットワークの構築にも大いに役立っている。

なお、上記の6つの項目の他に



授業サロン 意見交換会

も全学的な“FDフォーラム・FD講演会”“教員キャリアアッププログラム”などの実施、各学部でのFD活動もそれぞれ学部の実情に合わせて実施されており、『魅力ある授業づくり』の実質化を支える大きな原動力となっている。

学生が自主的に学び続ける新たなステージに向けて

大学の最も重要な使命は次代を担う若者の育成であり、大学は常に最善と考えられる教育活動・改善を推進し続けることが当然の責務である。本学のFD活動の重点目標のように、教員と学生が協同して“授業を魅力あるものにする努力をし続けること”は、学生が生涯にわたって自主的に学び続ける習慣づくりに最も大切である。

本年8月末に出された中央教育審議会の答申“新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて”によるまでもなく、中部大学として、学生が自主的に学び続ける『魅力ある授業づくり』を追求する新たなステージに向けてさらなる挑戦をし続けることが強く望まれる。